



今月のポイント1 適期刈り取りに努めましょう。

<コシヒカリの刈取適期>

	平坦地帯	山間地帯
予想刈取適期 (出穂期)	9月1日～4日 (7月26日)	9月3日～6日 (7月28日)

籾黄化率 80～90% 籾水分 25%

登熟積算気温 960～1,100℃ (登熟積算気温：出穂してからの日平均気温の合計)

※本年は高温で推移しており、成熟期が昨年より3日程度早くなっています。必ず黄化率を確認して適期に収穫しましょう。

遅刈りは胴割粒発生の原因となるため、
籾黄化率80%から刈り始めましょう。



JAの営農の手引きの裏表紙を参考にしてください。

今月のポイント2 乾燥・調製は適正に行い、乾燥ミスによる胴割粒の発生を無くそう。

<乾燥作業の注意点>

- ① 品種が変わるごとに、コンバイン、乾燥・調製施設の清掃をしっかりと行う。
(異品種混入防止)
 - ② 水分計(乾燥機の自動水分計も含む)は事前に調整・点検を行う。
 - ③ **収穫した生籾を長時間放置せず、直ちに乾燥機に入れる。(ヤケ米防止)**
 - ④ はり込み後1～2時間の送風を行い、引き続き本乾燥を行う。(胴割粒防止)
 - ⑤ **急激な乾燥や高温乾燥は行わない。(胴割粒防止)**
 - ⑥ 水分過多・過乾燥に注意し、水分は14.5～15.0%目標に仕上げる。
- ※もち米については、全てハゼるよう二段乾燥を行いましょう。

<籾摺り・選別・計量>

- ① **皆掛け重量(30.5kg)の量目不足にならないよう注意する。**
 - ・近年、皆掛け重量の量目不足のものが見受けられますので、注意してください。
 - ・自動計量器の点検を必ず行ってください。
- ② 肌ズレ米の防止に努める。
 - ・籾摺り機のロールの間隔調整は適正に行ってください。
 - ・乾燥後一昼夜置いて穀温が常温に戻ってから籾摺りを開始します。
- ③ 整粒歩合80%以上にするため、適正網目を使用する。
 - ・未熟米を除くため、ライスグレーダーの網目は粳米・糯米ではL～LLサイズ(1.85～1.90mm)を使用してください。
 - ・適正な流量で選別してください。

裏面に続きます

栽培履歴簿と自己点検(GAP)シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。

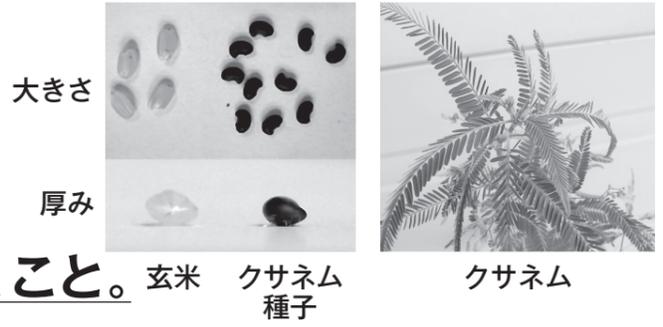
異品種混入を防止するため、機械・施設の清掃を徹底してください。

稲こうじ病にかかった稲は刈取前に取り除いてください。

クサネムは、刈取前に抜き取ってください。

注意事項

- ① **クサネムは刈取前に必ず取り除くこと。**
 - ・クサネムの種子はお米と同じくらいの大きさのため、籾摺り時に取り除くことが困難です。
 - ・クサネムの種子は検査時に異種穀粒とみなされ、等級を下げる原因になります。
- ② **稲こうじ病にかかった籾も刈取前に取り除くこと。**
 - ・混入している場合は規格外となる。
- ③ 機械の点検整備・農作業安全に努める。
- ④ 栽培履歴簿と自己点検（GAP）シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。
- ⑤ 玄米の盗難防止のため、倉庫の施錠等、対策をとってください。



刈取後の雑草対策

雑草名	除草剤名	10aあたり散布量	散布時期
イボクサ サヤヌカグサ クログワイ コウキヤガラ等	クロレートS ラウンドアップ マックスロード	20~25kg 原液1ℓを 水25~50ℓで希釈	雑草の生育期 (雑草が、わらの上まで生育してから散布してください。)
ヒエ	石灰窒素	20kg	稲刈り後1週間以内 (ヒエが発芽し、その後、寒さで枯死します。)

上記の除草剤を散布した後、1ヶ月間は耕起しないでください。
除草前に耕起すると、ちぎれた球根や茎が土中に混ざりこみ、除草作業が困難になります。

元気が見える土づくり対策

JA石川かほくでは、**土づくり資材の散布受託（散布機械・オペレーター確保、散布費用無料ただし3ha以上）または、散布奨励金（370円/3袋（10a当り））の還付**を行う、「土づくり運動」に取り組みます。

JA石川かほくの土づくり運動の対象資材＝かほく^{だいち}大地の恵^{めぐみ}または^{うまいぞう}有米蔵

- ① **秋の好天のうちに以下の資材を散布し耕起する**
 - ・有機物の投入：堆肥2トン/10a
 - ・土づくり資材の施用：かほく^{だいち}大地の恵^{めぐみ}または^{うまいぞう}有米蔵 どちらも3袋（60kg）/10a
- ② **JA石川かほく管内の地力は低い状態です。**
 - ・土壌酸度は、目標値よりやや低めですが、問題ありません。
 - ・土壌中の有機物（腐植）が少ない傾向にあります。
 - ・土壌中のリン酸、ケイ酸も目標値より低い状態です。

平成26年度JA石川かほく管内土壌分析平均値

項目	現状	目標値	項目	現状	目標値
土壌酸度 (pH)	5.6	5.5~6.5	可給態リン酸含量	12.4mg	20mg
腐植含量	2.4%	3.0%	可給態ケイ酸含量	16.2mg	30mg

JA石川かほく米555共励会 今月のポイント

- 刈取り5日前までの間断通水により登熟向上を図り、収量向上
- 適期の刈取りにより未熟粒、胴割粒の発生を抑え、品質向上
- 急激乾燥・高温乾燥を避け、胴割粒の発生を抑え、品質向上
- 土づくりの実施により、天候に左右されにくい稲となり、食味、品質、収量ともに向上

・災害等（イノシシ被災含む）によって2割以上の減収が予想される場合には、農業共済（TEL：239-2555）に被害申告を行ってください。